

みなとオアシスのトピックス

第18回北前船寄港地フォーラムin北海道江差を開催【みなとオアシス江差】

北海道と本州をつないだ「北前船」の寄港地が連携し、地域振興策を考える「第18回北前船寄港地フォーラムin北海道江差」が11月11日(金)町内の文化会館で開催され、秋田や山形、遠くは鳥取など全国の観光関係者やJR北海道や全日空などの交通関係者、町民など約600名が参加しました。

同フォーラムが道内で開催されるのは09年の松前町、12年の函館市以来となります。照井江差町長の挨拶に続き、江差追分全国大会優勝経験者の民謡、北海道無形民俗文化財の「五勝手鹿子舞」や「江差三下り」といった郷土芸能がステージ上で披露され、会場を大いに沸かせていました。

その後の基調講演では、JR北海道の島田修社長が「開業半年を迎えた北海道新幹線」をテーマに講演され、「新幹線開業により鉄道利用者が大きく増えた。今後は、広域的な連携や航空機などとの組み合わせによる新たな商品開発が不可欠」と訴えておられました。続いて行われたパネルディスカッションでは、「北前船と江差文化」、「道南の文化遺産と観光資源の輝かせ方」をテーマに、計6名のパネラーが登場し、北海道新幹線の開業を契機に、江差追分など江差が誇る伝統文化の魅力を知ってもらう取組みの必要性や、観光地としての江差町の可能性について議論されました。

その他、会場内に設けられた物産・PRコーナーでは、江差町を含む檜山管内7町その他、北前船寄港地の秋田市、酒田市などの自治体が特産品やパンフレットを配布した他、「青函圏みなとオアシス」が連携し、国交省港湾局が推進する「みなとオアシス」や関連する7自治体(江差町、函館市、青森市、大間町、むつ市、八戸市、十和田市)のPRパンフレットを配布し、多くの参加者に注目していただきました。



民謡ステージ(江差追分)



郷土芸能ステージ(五勝手鹿子舞)



パネルディスカッションの様子



青函圏みなとオアシスPRブースの様子